

安庭小学校の開校について

平成26年度に雫石町内の四つの小学校（雫石小、上長山小、下長山小、御明神小）が学校開校140周年を迎え、それぞれの学校で盛大に周年式典が行われました。それに先駆け、平成25年度に安庭小学校と西根小学校が学校開校140周年を迎え、同じく周年式典を行いました。

では、なぜ安庭小学校と西根小学校が一年早く開校したのでしょうか。両校とも開校は、明治6年5月ですから、「邑に不学の戸なく、家に不学の人なからしめん」という明治5年8月の太政官布告に依る学制発布の翌年の春に、既に両校は開校したのです。県内の各小学校と比較しても、とても早い開校でした。

岩手郡誌には、「明治5年4月に岩手郡寄木村平野、西安庭村^{まがきの}籬野、大更村山後谷地（岩手の教育界史では、小屋地と記述しております。）、西根村駒木野の四箇所よっしよに小学校を建て、これを仁恵小学校と称したのは、岩手郡における学校の最初のものであった。この四箇所は旧南部藩士を移住して開墾に従事せしめたところで、その父兄は皆文字を知り、子弟の就学を希望したが、戊辰戦争の影響を被った無資力者の移民であったため、学資に窮し、大蔵省から県庁に委託されてあった開墾資金に若干の余裕があったものを、官においてこれを富商に貸付し、その利子を収めて学資に充て、移民の志を達せしめ、教育の普及を図った」と記されています。安庭小学校と西根小学校は、このようにして誕生したのです。

戊辰戦争時、奥羽越列藩同盟を結成し、西の薩摩・長州藩らとの戦い敗れた南部藩をはじめ、仙台藩、会津藩らは賊軍の汚名を着せられ、明治になって不遇の時代を迎えました。しかし、そのような環境の中にあっても子弟の教育に力を注がれた先人の識見の深いことに敬意を表するとともに、他に先駆けて盛んであった奨学の気風を今の子どもたちにも伝えていきたいと思います。